

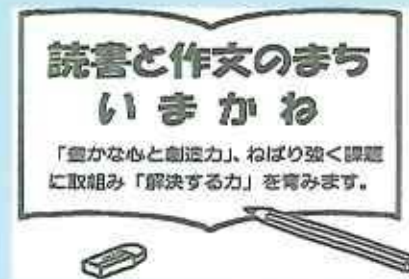
【令和2年度事務事業点検評価】

今金町教育委員会

外部評価委員会提出資料

〈令和2年度年間評価〉

令和3年7月7日実施分



今金町教育委員会

目 次

■学校教育G

1	へき地・小規模校への教育の推進事業	P1
2	就学援助の充実事業	P2
3	特別支援教育の推進事業	P3
4	地域の教育力活用事業	P4
5	指導主事の配置事業（「ふれあい相談」相談員の配置事業を含む）	P5
6	国際交流推進アドバイザー活用事業	P6
7	豊かな心と健やかな体の育成事業	P7
8	学童保育所運営事業の充実	P8
9	町立学校教職員の働き方改革推進事業	P9
10	学校給食と食育・食農ネットワークの推進事業	P10
11	学校給食センター給食供給事業（衛生管理）	P11
12	学校栄養教諭と栄養士による給食指導及び食に関する指導事業	P12

■幼児教育G

1	認定こども園いまかね運営支援事業	P13
2	へき地保育所の運営事業	P14
3	いまかね子育て応援隊活用事業	P15
4	子ども発達支援センター運営事業	P16

■社会教育G

1	家庭・地域教育力向上推進事業	P17
2	青少年教育の推進事業	P18
3	成人教育の推進事業	P19
4	図書活動の推進事業	P20
5	国際交流の推進事業	P21
6	社会教育団体育成支援事業	P22
7	スポーツ活動の推進事業	P23
8	スポーツ施設運営事業	P24
9	文化芸術活動の推進事業	P25
10	ピリカ旧石器文化館運営事業	P26
11	文化財の保存・活用事業	P27

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名 学校教育グループ 事業番号

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		学一①	事業名
款	10 教育費	①事業の目的 北海道教育大学の学生がへき地・小規模（複式校）で行う教育実習の支援協力を行うもの。北海道へき地複式連盟加盟学校は、道内小学校1,054校のうち242校（約23%）であり、その多くが複式学級で構成されていることから実際に教師になったとき、へき地・小規模校で教鞭をとる割合が高いと考えられる。種川小学校と同規模の小規模校が道内にいくつかあり、その小学校で教育実習を行うことで、「教育の原型」に直接触れ、「教育とは何か」「へき地とは何か」という命題について、地域の中に位置づく学校の日々の教育活動から答えを見出す契機となることが期待される。 種川小学校は、H27より小規模特認校制度、H29より学校運営協議会（CS）を導入した。 今金小学校・今金中学校は、小中連携という形でH30.3月より学校運営協議会（CS）を導入した。			
項	1 教育総務費	②事業対象と手段 へき地・小規模校における教育活動の観察や授業実習等を通して、成長していく子どもの様子や地域と学校の結びつき、またその中の教師の役割について理解を深め、教師としての基盤を確立する。 ○へき地・小規模校教師の仕事の理解 ア 学校経営について イ 児童理解について ウ 複式・少人数授業（指導を含む）について エ 分掌等の事務処理について オ 特色ある学校づくりについて ○地域と学校との結びつきの様子について認識を深める ○令和元年度の教育実習実施日 新型コロナウイルス感染症流行により実習生の受け入れを中止			
目	2 事務局費	③小規模特認校制度について（H27年度より運用開始） 恵まれた自然環境や教育環境の中で少人数指導を活かして、児童の心身の健やかな成長を目指し、豊かな人間性を育むための教育活動を展開する小規模な小学校であって、当該小学校に就学した児童がその通学区域の区域外から通学することを一定の条件の下に認めるもの。H27より種川小学校を指定している。令和2年度は、1年生2名、2年生5名、3年生3名、4年生3名、5年生2名、6年生1名の計16名が小規模特認校制度を利用し、種川小学校へ通学している。（全児童26名中16名が小規模特認校利用児童）			
節 金額（千円）					
【事務局費】					
8. 報償費	70				
19. 負担金補助及び交付金	121				
計		191			
補助金等の有無		有・無			
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善				
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望		
〔事務・事業の写真等〕	妥当性	A	今年度のへき地校教育実習は中止となったが教員をめざす学生が教育実習を行うことは、全道の小学校約23%を占める「へき地・小規模校」の教育活動に理解を深めることに繋がることから、引き続き取り組みは継続したい。小規模特認校制度に関して、児童は、複式による少人数教育を受けることができている。今金町がめざすCS、今金町教育スローガンの達成に向けた学校経営ができている。		
	成果	A	小規模特認校制度に関して、個に合った指導により児童一人ひとりの成長に繋がっている。CSを導入している種川小学校では、下校時の児童の見守りを地域の方がボランティアで協力して頂いており、地域とともにある学校づくりの成果が表われている。		
	効率性	A	効率的に事業を実施している。今金市街地等から小規模特認校制度を利用している児童は、教育委員会と業者委託し運行しているスクールバスを利用し登校している。学校だけで出来ないことは、地域からの協力を得ながら学校運営を行っている。		
	総合評価	A	実習生を受け入れることで、学校や児童にも良い刺激があることから、継続実施する必要がある。小規模特認校制度に関して、小規模校で複式教育を受けさせたい保護者にとっては希望に沿った教育を受けることができている。学校運営協議会については、H29種川小学校、H30今金小学校・今金中学校が小中連携型で導入し、町立学校全校が「地域とともにある学校づくり」を推進していく。		

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	種川小学校小規模特認校制度を活用し個々にあった学習指導により児童一人ひとりの成長につながっており、今後も継続していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 経済的な理由を有する児童生徒の適切な就学を支援するもの。 ②事業対象と手段 ア 今金町奨学資金貸付基金条例による奨学金の貸与 ※ 今金町奨学資金貸付基金条例の一部改正を実施 (H31.3実施) 対象者 優秀な常生生徒で経済的理由により修学困難な者 ※令和2年度貸与者内訳 (継続者14名、新規12名) 【内訳】○高等学校(公立) 月額15,000円 0名 ○高等学校(私立)・高専(3年) 専修学校(公立) 月額20,000円 3名 ○短期大学 月額28,000円 0名 ○専修学校(私立)・高専(4年) 月額25,000円 6名 ○私立大学 月額30,000円12名 ○大学院・公立大学 月額25,000円 5名 ○ 令和元年度当初 今金町奨学資金貸与基金 67,095,020円 (令和2年度15,000,000円基金増資) ○ 令和2年度今金町奨学資金貸与運営委員会の開催 (令和2年度より廃止) ○ 奨学資金に関する解りやすいリーフレットの作成※「戸籍窓口」に配置し転入者に周知している。今金中学校3年生、曾山北高等3年生に直接配布している。 イ 就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励について国の援助に関する法律による(学校基本法)「要保護児童生徒への就学支援」 対象経費 学用品費・修学旅行費・学校給食費・体育実用品費・医療費等 令和2年度 対象児童生徒数 小学生17名、中学生12名 合計29名 令和2年度 新入学児童生徒学用品費前倒し支給 対象児童生徒数 小学生1名 中学生1名 合計2名	
項	1・2・3 小学校費・中学校費		
目	2・1 教育振興費		
節	金額(千円)		
20. 扶助費	2,995		
	小 1,380		
	中 1,615		
計	2,995		
補助金等の有無	有・無		

学②
事業名
就学援助の充実事業

名称	特別支援教育就学奨励費国庫補助金	【自己点検と評価】	※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善
金額	80千円	評価項目	評価

評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
妥当性	A	準要保護による就学支援により、経済的に困窮している家庭を支援することで、児童生徒が安心して就学することができる。奨学資金制度を活用し人材育成を図ることができている。
成果	A	各校の新入学児童生徒説明会で準要保護制度の説明を実施し、本制度の周知し、理解を得ている。奨学資金に関しては、転入者向けに戸籍の窓口にてリーフレットの配置、中学3年生、高校3年生には直接リーフレットを配布し、奨学資金貸付制度の周知し、理解を得ている。準要保護による就学支援により、給食費を援助することから給食費の滞納防止ができている。経済的理由により修学困難な生徒に対し奨学資金を貸与することにより人材育成が期待できる。
効率性	A	準要保護対象者への就学援助や、奨学資金制度を活用した就学支援を効果的に実施している。
総合評価	A	小学校・中学校へ入学する児童・生徒世帯に対して入学に係る学用品費を入学式前に繰上げて支給し、更なる経済的支援を行い、また、高校・大学等へ進学する奨学資金貸与希望者に奨学資金を貸与することにより、経済的支援を図り、適切な就学を支援することができる。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	就学援助や奨学資金制度により経済的支援を図り適切な就学支援をしていることは評価できる。今後も更なる支援の充実をお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		学一③
款	10 教育費	①事業の目的 特別支援教育のあり方について、町内小中学校及び専門機関・関係機関等と連携し支援体制の具体化を図ることと、今金町に適した特別支援教育の推進のための調査研究と実践活動を行うもの。		
項	1・2 教育総務費	②事業対象と手段 ○各小中学校への特別支援教育支援員の配置 ※大学の協力を得て、人材の推薦を頂いている。 ・今金小学校常勤2名、種川小学校常勤1名、今金中学校常勤1名配置 計4名配置 ※特別支援学級以外の児童生徒に対する細やかな支援対応や今金小学校の支援員が学童保育所を巡回し担当児童等の支援を実施 ○今金町教育支援委員会の設置 ・H26年度より今金町特別支援教育連絡協議会・今金町就学指導専門委員会を統合し設置。また委員会内に専門部会を設置し、従来の今金町特別支援教育推進チームや育ちの支援委員会等の機能を引き継ぎ、必要に応じ随時開催している。 ・今金町教育支援委員会委員の意見より、H30より就学時知能検査を「簡易検査」から「知的発達スクリーニング検査」へ変更した。 ○個別の教育支援計画の作成 ・長期的な視点で、学校や家庭、各関係機関での支援を実践する上での重要なツールとして活用 ○特別支援教育スーパーバイザーの配置 (H27年度まで) ※令和2年度より再配置 ○健康教育アドバイザーの配置 ・H27年10月より今金町健康教育アドバイザーを配置し、町内乳幼児健診をはじめとする相談業務等に従事し特別支援教育の充実を図っている。 ・不登校生徒に寄り添った相談役として教職員とは違った角度から関わり、心のケアを行っている。 ○特別支援学校との連携強化 ・特別支援教育における地域の専門機関との連携(今金高等養護学校) ・特別支援教育パートナーティーチャー派遣事業の活用(今金高等養護学校) ・特別支援学校卒業生に対する今金町就労支援事業により2年間嘱託主事として採用 (H23年度1名、H24年度1名、H27年度1名、H28年度1名、H29年度1名、H301名) ・今金町特別支援学校児童生徒帰省費支給要綱(町単独事業)に基づく支援の実施		事業 名 名
目	1・2 教育委員会費・事務局費			
節		金額(千円)		特別支援教育の充実事業
1.	報酬	183		
2.	給料	7,898		
3.	職員手当等	648		
4.	共済費	997		
計		9,726		
補助金等の有無		有・無		

名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
【事務・事業の写真等】	妥当性	A	個別の支援を要する幼児・児童・生徒が増加する中、特別支援教育を幼小中高や関係機関が連携して推進する体制が確立している。
	成果	A	幼小中の児童生徒に関する教育支援委員会専門部会等で対象者の状況や今後の手立て等について協議を行うなど効果が現れている。今金町教育支援委員会の委員の意見を参考とし、就学時知能検査を簡易検査から知的発達スクリーニング検査に変更し実施し、後進要留置者や希望者に教育相談を実施するなど、特別支援教育の充実を図ることに繋がった。
	効率性	A	特別支援教育の充実を図るため、各関係機関と連携しながらきめ細やかに各事業を効率的に実施している。
	総合評価	A	小中学校への特別支援教育支援員の配置や各種会議等により各関係機関の情報共有が図られており、特別支援教育の充実が推進されている。今後も、よりきめ細やかな対応が求められることから、研修等を行い、更なる特別支援教育の充実を図っていく。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	各学校への特別支援教育支援員の配置や各種会議等により関係機関との連携が図られており、特に特別支援教育スーパーバイザーや健康教育アドバイザーの配置などきめ細やかな対応が評価できる今後も更なる支援体制をお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		学一④
款	10 教育費	①事業の目的 H20年度に文部科学省がすすめる「地域の教育力を学校教育支援に」を合言葉に、全国的に推進されている学校支援地域本部事業を今金町でもスタートし、子ども達をとりまく社会環境が複雑になる中、子ども達の健全育成を学校や家庭だけでなく、地域に埋もれている豊富で高度な教育力を学校教育の場にも生かし、地域ぐるみで子ども達を育てていくことを目的とする。		事業 事務 名
項	2 小学校			
目	2 教育振興費			
節	金額(千円)			
8. 報償費	4	②事業対象と手段 各学校、今金町学校運営協議会(CS) 【主な活動計画】		地域の 教育力 活用 事業
		○今金小学校世代間交流事業(3年生対象)での人材活用 ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止 (下記は昨年度事業)		
		・第3老人クラブ・檜山振興局森林室北檜山事務所・今金小学校の三者による事前打ち合わせ ・第3老人クラブによる「縄ない」や「小枝のえんぴつ、丸太のフクロウ、鉛筆立て」の作成、「お手玉遊び」 ・檜山振興局森林室北檜山事務所による講演「森の自然を学ぶ」や木工体験「木の実クラフト」を実施		
		○種川小学校での人材活用事例 ・町内の琴愛好家による全校音楽の時間を活用した「琴の演奏」を令和3年3月1日実施 ※H27年度に各小中学校に琴や三味線の寄贈があったことから、琴の音色を見直しに聞いてもらうため事業を実施している。		
		【その他の活動(参考)】		
		○各学校での独自取り組みによる人材活用事例(総合的な学習)		
		・種川小学校「ふるさと先生」を活用し「各学年の書写・習字学習、大豆栽培、水泳指導」を実施 ・今金小学校「今金の米から食を考えよう」「光の星とのふれあい学習」を実施		
計		4		
補助金等の有無		有・無		
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望	
【事務・事業の写真等】				
	妥当性	—	地域の人材の教育力を学校現場で活用することは子どもたちの成長に有効である。	
	成果	—	普段経験をしなないことを体験することで子どもたちが興味や関心を持つ良い機会となっている。	
	効率性	—	効率的に事業を実施している。	
	総合評価	—	年間を通した取り組み(体験活動等)をすることにより子どもたちの成長に繋がることとなることから、今後も継続した取り組みが必要不可欠である。	

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄
—

評価委員意見
新型コロナウイルス感染症に伴い地域の教育力活用事業が実施できなかった。次年度以降は感染状況によるが、学校での地域の知恵や協力を活かせるようお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】


グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 【指導主事配置事業】 時代背景に即し、今金町の教育環境の整備と教育を取り巻く諸課題の解決を図るために、学校・地域・家庭との双方向の連携を密にするとともに、関係機関（団体）に情報提供や助言等を行う。 ②事業対象と手段 ・教育委員会の教育行政施策の具現化に向けて、校長会、教頭会、教育関係機関・団体等へ必要な指導助言を行う ・学校経営の充実に資するため学校訪問を行う ・学校教育の推進に関して、校長会、教頭会、教育関係機関・団体との連絡調整指導助言を行う ・就学前施設・小学校・中学校との連携状況に関する指導助言を行う ・特別支援教育推進アドバイザーとして、校長会、教頭会、関係機関・団体と連携及び指導助言を行う ・教員の各種研究・研修に関して、必要な指導助言を行う ・教育支援委員会の運営に関して、必要な指導助言を行う ・その他、教育長の命による事項について調査・企画・調整等を行う	①事業の目的 【「ふれあい相談」相談員配置事業】 保護者や児童生徒が抱えている不登校や問題行動等の諸問題を日中・夜間問わずに24時間体制で相談できる電話による「ふれあい相談（82）3550」を設置することと、児童生徒が悩みや相談を気軽に話すことができるよう「ふれあい相談」相談員を配置し、児童生徒の健全な学校生活、家庭生活を支援するもの。 ②事業対象と手段 ・「ふれあい相談電話」設置による24時間体制の確立 【ふれあい相談員活動実績及び計画】 学校名 実績/計画時間(実績/計画日数) 今金小学校 102時間/93時間 (34日/31日) 種川小学校 57時間/48時間 (19日/16日) 今金中学校 81時間/93時間 (27日/31日) 合 計 240時間/234時間(80日/78日)
項	1 教育総務費		
目	2 事務局費		
節 金額(千円)			
3.	職員手当等	1,560	
9.	旅費	0	
計		1,560	
補助金等の有無		有・無	

学一⑤

事業名

指導主事の配置事業
 「ふれあい相談」相談員の配置事業を含む

名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
【事務・事業の写真等】 	妥当性	A	教育長の教育行政執行方針を教職員に説明するなど、教育委員会と学校が円滑に連携・協力できるようにしている。ふれあい相談を実施し、管理職や教職員への指導・助言、児童生徒からの相談対応ができています。
	成果	A	学習指導要領の移行に伴い、「特別の教科道徳」「外国語」「GIGAスクール構想」の実施に向け、指導・助言を行った。就学前児童保護者に対する教育相談において、小学校入学までに家庭でやるべきことなど、的確な指導・助言を行った。
	効率性	A	ふれあい相談や各種会議で指導助言を行うことで学校・家庭・教育委員会の連携を深めることができています。
	総合評価	A	指導主事を配置することで、学校訪問等により各学校や教職員と関わる機会が増えており、研究会の指導・助言など指導主事の配置は町教育行政の推進に欠かせないものである。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価値
A

評価委員意見
 指導主事の配置により、学校訪問等各学校や教職員とのつながりが図られており、教育行政と学校が円滑に連携協力できている。また、ふれあい相談、各種会議研修等での指導・助言、調整などを通し今金町の教育力の向上を期待したい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年予算執行状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 今金中学校の生徒がニュージーランドとの国際交流を図っており、英語圏出身の国際交流アドバイザーを招聘し、幼児教育、学校教育における国際理解の充実を図るとともに児童生徒の英語力の向上を図る。また、併せて広く町民への国際理解の機会を提供するもの。学習指導要領の改訂で小学校3・4年生の「外国語活動」の本格実施に伴い、アドバイザーの授業支援をもって国際理解教育の推進を図る。	
項	4 社会教育費		
目	5 国際交流推進費		
節	金額(千円)		
給	与 3,816		
8.	旅 費 0		
10.	需 用 費 45		
11.	役 務 費 2		
17.	備 品 購 入 費 30		
18.	負担金・交付金 0		
計	3,893	②事業対象と手段 ○ 幼児教育・保育施設、小中学校及び高等養護学校等への巡回（学校教育）によるアドバイザーの活用 ○ 地域、社会教育における国際交流の支援 ○ 広く町民を対象とした英会話教室の開催等、国際理解教育の推進 ○ 各年代層における国際交流の推進	
補助金等の有無	有・無	【令和2年度活動実績】 ○ 学校等訪問回数 ① 今金中学校 74回 ② 今金小学校 88回 ③ 種川小学校 105回 ④ 学童保育所 0回 ⑤ 今金高等養護学校 2回 ⑥ 認定こども園いまかね・種川保育所 75回 合計344回（前年度343回） ○ English Talk Class（中学生対象） 4回13名 ○ えいごキッズクラス（小学生1～2年生対象）中止 ○ 英会話教室（一般成人対象）一部オンライン化、計26回実施 11名受講 ○ ニュージーランドバーンサイド高校生受入事業運営支援 ※社会教育⑤に記載	
名称	電源立地地域対策交付金	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
金額	3,000千円	評価項目	評価
【事務・事業の写真等】		評価の内容及び今後の展望	
	妥当性	B	令和元年度以降、小学校偏重の傾向を是正し、認定こども園や成人対象の教室にも時間を配分することで、本来のアドバイザー業務に携わられるようにした。
	成果	B	小学校教員に外国語の指導ノウハウが徐々に浸透してきており、アドバイザーとの連携、協力関係が円滑に進んでいる。
	効率性	B	小学校教員に外国語の指導ノウハウが徐々に浸透してきており、アドバイザーとの連携、協力関係が円滑に進んでいる。
	総合評価	B	教職員の資質能力の向上を図る意味でも、本アドバイザーの役割は以前に増して大きい。新年度前に学校側と打ち合わせの時間を持つなど、年度ごとにアドバイザーの訪問体制を協議しておくことが今後も必要である。

国際交流推進アドバイザー活用事業

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄


B

評価委員意見

小学校での外国語の指導ノウハウが徐々に浸透し、国際交流推進アドバイザーとの連携協力が円滑に進んでいることは評価できる。今後も国際理解教育の推進を図っていただきたい

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成2年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

平成2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		学一⑦
款	10 教育費	【事業の目的】		
項	1・2・3 教育総務費・小学校費・中学校費	思春期保健指導の充実のため保健師や外部講師を招聘し、町内小学生や中学生を対象に実施する。児童生徒を対象とした各種検診を行い適切な事業措置から学校保健、教育活動に資することを目的とする。豊かな情操や感性を育むため「小中学生絵画書道展」を実施する。これらの事業は学力向上「確かな学力」の基礎となる「健やかな体」「豊かな心」に効果が高いことから継続した事業展開を進める。		事業 業務 名
目	1・2 教育委員会費・教育振興費			
節		金額(千円)		豊かな心と健やかな体の育成事業
【教育委員会費】		○検診事業		
8. 報 償 費	75	・心臓検診、内科検診、耳鼻科検診、歯科検診、眼科検診(4月～7月) ※教職員健康診断(7月) ・就学時健康診断(知能検査10月、健康診断11月) ※配慮要する児童については、早期より介入をし児童に適した体制を図る。		
【事務局費】		○心の健康		
11. 需 月 費	192	・児童生徒の課題に即したケアや健康相談の実施(今中学生2件、個別訪問全20回)		
【教育振興費】		○思春期保健		
13. 委 託 料	2,103	・「性の健康教室」 中学生全対象(10月・12月) (講師)今金町国保病院院長、町保健師、町教委 ・「たばこの害と健康」 小学6年生対象(2月) (講師)町保健師、町教委 ・「薬物や飲酒の害と健康」 小学6年生対象(2月) (講師)町保健師、町教委 ・「命の輝き」 小学5年生対象(R2年度中止) ▶「地域の保健授業」 小学6年生対象(R2年度中止)		
計		2,370		
補助金等の有無		○有・無		
名称		へき地学校保健管理費補助金		
金額		29千円		
【事務・事業の写真等】		【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
 <p>中学3年生「性暴力・性被害について」</p>		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
		妥当性	A	「学校教育法」及び「学校保健安全法」の規定に基づいて実施。
		成果	B	「心の健康」「思春期保健」をとおしてよりよい人間関係を築くために自分も相手も大切にすることの実践力を育む機会となっている。 また、児童生徒が抱く「不安」に寄り添うことで、課題に即したケアや健康相談に繋がられた。
		効率性	A	連携から役割分担が図られている。
		総合評価	B	相談支援体制が構築され、連携強化と継続した支援が確立されてきている。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価値
B

評価委員意見

健康教育アドバイザーにより子どもたちの健やかなや体や豊かな心の育成を図ることができていることはとても評価できる。今後も学校や各種関係機関と連携し、子どもたちへの相談支援体制を継続して確保してほしい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況	
款 3 民生費	10 教育費
項 2 児童福祉費	1 教育総務費
目 2 学童保育所費	2 事務局費
節	
1. 報酬(事務局費)	10,173
3. 職員手当等	312
8. 旅費	49
10. 需用費	6,325
11. 役務費	249
12. 委託料	525
13. 使用料及び賃借料	133
17. 備品購入費	0
18. 負担金補助及び交付金	0
19. 扶助費	0
計	17,766
補助金等の有無	有・無

〔事務・事業の概要〕

①事業の目的
 昼間保護者が家庭にいない小学校低・中学年学童等を対象に健全育成を図ることを目的とする。

②事業対象と手段
 【事業内容】※新型コロナウイルス感染対策として、下記のとおり事業限定で実施。
 ○ 親子の交流を図る。(父母の会主催：夏のレクリエーション・お別れ会等)⇒中止 ○ 子どもの成長・発達を祝う(誕生会)⇒実施
 ○ 季節の行事を楽しむ。(節分・七夕・クリスマス会・まゆ玉飾り・ひな祭り等)⇒実施
 ○ 土日開設日を利用した町行事への積極的な参加。⇒総合文化祭のみ出展参加
 ○ 地域との交流を図る。⇒陶芸同好会指導による陶芸教室のみ実施。

【対象者】
 ○ 小学校1年生から4年生までの学童で、家庭で放課後一定時間安全に保護されていない下記に該当するもの。
 1) 父子・母子家庭の学童 2) 保護者が長期病気の学童 3) 両親が共働きの学童

【令和2年度の入所状況及び開所状況等】
 ○ 令和2年4月当初入所者数 89名 (1年生 25名、2年生 27名、3年生 19名、4年生 16名、5年生 1名、6年生 1名)
 ○ 令和3年3月時点入所者数 71名 (1年生 22名、2年生 25名、3年生 15名、4年生 7名、5年生 1名、6年生 1名)
 ○ 開所時間 平日：放課後から午後6時まで 長期休業中及び一日保育日：午前8時00分～午後6時00分まで
 ○ 開設日数 年間242日(内、土日開設1日)※新型コロナウイルス感染防止に係る学校事業等中止の影響により、土日開設日数が減少。
 ◆令和2年度も当初入所希望児童数が定員70名を超えた為、老人福祉センター事務局内「通称：第2学童」を継続設置とした。
 ◆新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校臨時休校等措置に呼応し、4月20日～5月末まで低学年を中心とし一定条件を満たした児童のみを対象とした限定開所を実施。
 ◆種川小学校在籍の特別支援教育対象2年児の通年利用が有り、日々専任職員加配を実施。(基本職員体制：第1学童7名、第2学童2名/所長除く)
 ◆夏季の熱中症対策を主目的に、専用施設へエアコンを設置し(生活室1台・遊戯室2台)、環境整備を実施。

学一⑧

事業名

学童保育所の充実事業

名称	子ども・子育て支援交付金
金額	国:52千円・道:548千円

〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善



評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
妥当性	A	児童の放課後対策の拠点として学童保育所を運営することは必要且つ重要である。
成果	A	令和2年度当初入所者数も専用施設定員70名超の89名となり、利用ニーズは引き続き高い。保護者の願いである児童の安全・安心の確保は一定の達成をみており、コロナ禍においても健全育成を図るための様々な指導・支援は日々実践された。外部団体との事業が軒並み中止を余儀なくされたが、職員の創意工夫で冬の雪遊びや自前の紙芝居など、児童の安全・安心を確保しながら実施された。
効率性	B	常時70名以上の在籍児童に対し、所長+常勤職員4名に加え、子育て応援隊12名を活用して臨機応変な開所対応を実施している点で効率性は高い。加えて特別な支援を要する児童3名のほか、25名の1年生への対応、また昨今の課題を抱える児童の増加への対応等を鑑みるに配置職員数は効率性を損なうほど過多とはいえない。
総合評価	B	児童の放課後対策拠点としての社会的ニーズの定着から、今後も事業の継続は必須である。児童のより充実した放課後の実現に向けて、「児童の自主性を尊重した見守りの実践」や「適正な空間確保」は依然課題である。長期的視点としては、専用施設の定員70名を超える状況が令和6年度頃まで見込まれる中で、継続可能な人的整備及び運営体制も課題である。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄
B

評価委員意見
 子どもたちの放課後対策拠点として学童保育所は大きな役割を果たしていることは評価ができる。今後も継続として運営するため施設面や人員配置の検討が必要。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算の状況		【事務・事業の概要】		学一⑨
款	10 教育費	①事業の目的 北海道教育委員会では、道内全ての学校において働き方改革を進めるために「学校における働き方改革北海道アクション・プラン」を平成30年3月に策定し、1週間当たりの勤務時間が60時間を超える教員をゼロにすることを今後3年間の目標として、保護者や地域の方々の理解を得ながら各種取組を進めている。 本町においては、文部科学省や北海道教育委員会が策定した「働き方改革の計画」を参考に、「学校における働き方改革アクション・プラン」を策定しており、策定した計画を基に取り組みを実施し、教職員の時間外勤務等の勤務時間の縮減を目指す。		
項	2・3 小学校費・中学校費	②事業対象と手段 ○「学校における働き方改革アクション・プラン」の策定 これまでの働き方を見直し、教員が業務の質を高めるとともに、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い教育の質を高めるとい、働き方改革のめざす理念を共有しながら、取り組みを実行する。 「学校における働き方改革」は、学校はもとより、北海道、町、更には家庭、地域等を含めた全ての関係者がそれぞれの立場で、学校種による勤務態様の違いや、毎日子どもたちと向き合う教員という仕事の特性も考慮しつつ、その解決に向けて取り組んでいくことが重要である。 アクションプランの目標：1週間当たりの勤務時間が45時間を超える教員を全学校でゼロにすることを当面の目標とする。 ・夏季休業3日間、冬季休業6日間の学校閉庁日を設定。教職員の夏季休暇、年次休暇奨励日としている。		
目	1・ 学校管理費	○各学校教職員の勤務時間把握の取組み 平成30年9月より試行的に各学校教職員の勤務実態を把握するためタイムレコーダーを導入し、健康管理へ活用する。		
節 金額(千円)		○各学校教職員のストレスチェックの実施 各学校教職員が自らのストレス状態や原因を把握し、それをストレスへの対処のきっかけとして早期から心身の健康改善へ繋げる。		
【学校管理費】				
13. 委託料		23		
計		23		
補助金等の有無		有・無		
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望	
【事務・事業の写真等】				
	妥当性	B	現在、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校現場が直面する課題も多種多様であり、教員は様々な教育課題への対応を求められている。学校教職員が健康でやりがいをもって働くことができる環境を整え、子どもたちと向き合う時間を確保することは大変重要であり、学校教職員の負担を軽減する取組の実行が求められていることから、本事業は、妥当であると判断する。	
	成果	B	学校全教職員の働き方が見直しされ、勤務時間の縮減に繋がるなど、成果が見えてくるまでには期間が必要である。	
	効率性	B	本事業を通し、学校全教職員の意識改善に繋がる。	
	総合評価	B	これまでの働き方を見直し、教員が業務の質を高めるとともに、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い教育の質を高めるとい、働き方改革のめざす理念を共有しながら、取組を継続していかねばならない。	

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄	評価委員意見
B	学校教職員の勤務時間の管理など働き方が見直しされ、勤務時間の縮減につながるなど一定の成果が表れており、今後も働き方の改善を継続していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	給食センター点務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和2年度決算の状況	
款	10 教育費
項	6 保健体育費
目	3 学校給食費
節	金額(千円)
8.	報償費 10
11.	需用費 394
計	404
補助金等の有無	有・(無)

【事務・事業の概要】	
<p>①事業の目的 「今金町食育推進計画」を実行していくために、学校給食では「食を大切にできる子」を育む事を目標に「地場産品の活用」、「各教科における食の指導」、「普及啓発」といった3つのテーマを設定し、推進事業を実施してきた。平成25年に策定された「食育実践計画」は、今年度より「第2期今金町健康増進計画」の中で一体的に策定されたこともあり、今後の事業において一定の効果があり定着してきた事業は引き続きつつ、新たなニーズや要素を加えながら、保健福祉課や栄養士ネットワーク等とも連携を図り食育事業を実施していきたい。</p> <p>②事業対象と手段</p> <p>○実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園3歳児以上の米飯供給(週5日・4月～) ・へき地保育所(種川)米飯供給(週5日・4月～) ・地場産物を活用した学校給食の提供(通年) ・今金産黒毛和牛を使用した給食の提供(10月12日・牛すき丼で提供) ・学校給食食育推進委員会の開催(7月16日,10月17日,2月25日・書面による開催) ・今金食材サプライチェーン会議の開催(年1回・10月28日開催) ・今金町ふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日(11月15日開催) ・自分で作ったおにぎり弁当を持参(12月6日) ・洋食のマナーを体験しよう!(12月6日開催) 3年生:バイキング給食・お弁当作り体験 ・今金中学校を卒業したらお弁当を作れるぞ!プロジェクト 1年生:おにぎり作り体験・食に関する指導(地産地消) 3年生:バイキング給食・お弁当作り体験 	

学-⑩
事業名
学校給食と食育・食農ネットワークの推進事業

名称	
金額	

【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価項目	評価

【事務・事業の写真等】



中学2年生による
洋食マナー教室の様子


評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
妥当性	B	目標や年間計画について語る団体があり、食材供給に関しても情報交換並びに食材提供に関する支援をしていただける団体が機能しているので、スムーズな事業展開ができています。
成果	B	学校、家庭、地域により構成されている食育推進委員会で様々な食育事業の方向性を協議する事により、児童生徒に適切な食育事業を実施できている。お弁当を作れるぞプロジェクトでは、日曜参観日に合わせて自分で作るお弁当の日を実施し自分で食と向き合うという足掛かりとなるよう取り進めている。
効率性	B	お弁当を作れるぞプロジェクトでは、12月の日曜参観日に合わせて、1年生はおにぎり弁当を作って持参し、2年生は洋食のマナー体験、3年生はお弁当を自分で作って持参するという事業計画とし、今まで学年によってバラバラであった事業をまとめて実施するようになっており、事業実施に関わる作業人員につきましては保護者のご協力を得る等工夫して実施している。
総合評価	B	各種事業を実施する際に生産者のご協力をいただきながら、町の基幹産業である農業を通じて食を大切にできる子を育てていこう、学校・地域・家庭・行政を含めた団体・人が協力・連携をし、今金産の食材を使用した食事を提供するふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日を実施できている事は大きな成果である。事業も工夫を加えられる部分等考慮しながら取り進めていきたい。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	
B	

評価委員意見	
<p>保健所の指摘を受けた事項も老朽化施設に起因するものであることから、その他の対応も柔軟に行われている。大きな事故も発生していないことなどを考慮し、今後の適切な給食提供の継続をお願いしたい。</p>	

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

グループ名	給食センター庶務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和2年度決算の状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的	
項	6 保健体育費	日常の給食調理作業における、衛生管理は北海道教育委員会より発行されている「学校給食衛生管理マニュアル」に準じ日常業務にあたって	
目	3 学校給食費	いるとことであるが、食中毒や異物混入などの衛生管理・食品管理点検の更なる意識強化と、研修会の参加により児童生徒に安全で安心でおいしい学校給食を供給するという自覚を促す。	
節	金額(千円)	②事業対象と手段	
11.	需用費 18,564	○学校給食実施状況	
		・1日の平均供給食数 371食 (釧路小学校36人・今金小学校207人・今金中学校128人・給食センター9人)	
		・代替食の実施状況 1名(今金小学校)	
		・調理員 6名(今小または今中給食なし:5名) (準職員2名・会計年度調理員3名・パート調理員1名)	
		・現在まで使用の地場産物 (米、じゃがいも、大豆、ブロッコリー、ミニトマト、ピーマン 軟白長ネギ、アスパラ、大根、人参)	
計	18,564	○給食費 供給日数186日(非常食分を含む) 小学校 1日:232円 月額:3,600円 年額:43,200円 中学校 1日:294円 月額:4,550円 年額:54,600円	
補助金等の有無	有・(無)	○実施事業 ・衛生管理における分野を3部門に分け、協力して施設と調理等の管理を実施。 ・衛生管理調査票による定期点検を実施。	
名称		【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
金額		評価項目	評価
【事務・事業の写真等】		評価の内容及び今後の展望	
 <p>夏休み・冬休み期間中は調理上及び各機器を徹底的に清掃</p>		妥当性	A 給食について、地場産物を活用しながら安心安全でおいしい給食の供給に努めている。施設の老朽化により保健所の指摘を受ける箇所もあるが、既存の施設で対応できる中で改善を行いながら運用している。
		成果	A 栄養教諭・栄養士・調理員・技師が協力して施設管理を行い、調理に関しても衛生管理を徹底しており、食中毒等の事故がない給食の供給を実施しているところ。
		効率性	A 各学校への配送時間に関しては特段問題なく配送をすることができている。また、各学校の給食供給状況に応じて調理員の作業時間を調整する等、調理後2時間以内の喫食ができるよう取り進めている。
		総合評価	A 今後給食センター建設の計画があるが、衛生管理上先延ばしにできない課題等があった場合は予算措置を要望しながら、実施していく。山際の施設であるため、虫の侵入に関し細心の注意の中で、作業を行っており、異物混入にも注意し、安心安全な給食供給を行っている。
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
評価欄		評価委員意見	
A		行っている事業数や栄養士ネットワークのつながりも良好と思えるため、今後も事業継続に尽力して頂きたい。	

学校給食センター給食供給事業(衛生管理)

学一⑪

事業名

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕


グループ名	給食センター庶務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和2年度決算の状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 これまで、学校給食センター専門員として配置してきた学校栄養職員が平成21年4月より栄養教諭となり、今金小学校に配属となつてい る。さらに、平成23年度から町職員の栄 養士が配属となり、お互いが連携を図り、子ども達へ栄養や食事に関する適切な指導と他の教科、家庭、地域との連携、学校現場における食育 を推進し、安全で安心なおいしい給食を提供する事はもとより、地場産品を活用した給食を相互的に推進する。 ②事業対象と手段 ○実施事業 ・栄養教諭による新1年生と担任教諭に対する給食配膳指導 ・食に関する指導（中学生対象） ・栄養教諭による給食指導（今金小学校各学年） ・今金の米の食を考えよう（今金小5年生） ・バイキング給食 ・今金中学校を卒業したらお弁当を作れるぞ！プロジェクト	
項	6 保健体育費		
目	3 学校給食費		
節	金額（千円）		
11. 需要費			
計	0		
補助金等の有無	有・(無)		

学一⑫

事業
名
名

学校栄養教諭と栄養士による給食指導及び食に關

名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
【事務・事業の写真等】  <p>今金中学校で実施したお弁当を作れるぞ！プロジェクトの様子</p>	妥当性	B	今小では各学年で栄養教諭が給食指導を実施し段階に応じた指導を行っている。お弁当プロジェクト関連事業は、中学校・栄養士・栄養教諭が事前に打ち合わせを行い、徹底した感染予防対策のもと、無事実施することが出来た。
	成果	B	食を大切にできる子供を育てる事を目標として、地場産物と触れ合いながら学び、最終的には自分でお弁当が作れるようになるため、各学年において様々な食農・食育事業における指導を実施している。
	効率性	B	事業実施に向けて学校と協議し、お弁当を作れるぞ！プロジェクト関連事業を12月6日の日曜参観日にまとめて実施予定。事業の実施に当たっては、栄養士、栄養教諭と調理員と作業の分担を図り行っている。
	総合評価	B	本務である給食供給を作業分担をしながら適切に実施し、食に関する指導も行っている状況である。令和2年度はコロナウイルスの影響もあり、実施できなかった事業もあるが、感染予防対策を十分に行った上で調理実習やマナー教室などといった食育指導を行うことが出来たため、今後も児童生徒に対しより良い食育事業を実施できるよう工夫していきたい。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄

A

評価委員意見
 コロナ禍でも感染症対策を徹底した上でできる範囲で事業が実施できたことは評価ができる。今後栄養教諭と給食センター栄養士が更なる連携協力を図り食に関する指導

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	幼児教育グループ	事業番号	幼-①
-------	----------	------	-----

令和2年度予算状況		金額(千円)
款	3	民生費
項	2	児童福祉費
目	5	就学前子育て支援施設費
節		
1.		報酬 98
7.		報償費 0
8.		旅費 79
10.		需用費 495
11.		役務費 0
12.		委託料 0
18.		負担金補助及び交付金 20,253
19.		扶助費 115,008
【地方創生】		
20.		扶助費 10,746
計		146,679

【事務・事業の概要】

①事業の目的
平成23年4月に今金町と社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会の連携のもと開設された「認定こども園いまかね」に関し、就学前子育て支援施設の中核機関となることから、民間のノウハウを生かしながらも今金町に適した教育・保育の提供がなされるよう支援する。
※認定こども園＝幼稚園と保育園、子育て支援センターの機能を持ち、それぞれの良い面を活かしながら多様化する教育・保育ニーズに対応した施設。

②事業対象と手段
運営者：社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会
支援内容：町職員の派遣・幼稚園運営費補助金（H26で廃止）・育ちの支援事業に関する補助金・子育て支援センター運営に関する補助金・給食センターからの主食提供・保育所運営費・利用者負担軽減に関する支援等の実施。（H29より道の多子世帯保育所軽減事業を実施、保護者にとっては更なる負担軽減となっている。）
町との連携：①町の教育関係機関として位置付け、町教育委員会関連会議等に出席し、子どもに関する一貫した環境の充実を図る。
②心身の発達に心配のある児童に対する「育ちの支援事業」の提供と支援。・就学前交流事業、子育て支援センター運営等の実施。
③「今金町子ども・子育て支援事業計画」策定の為、認定こども園いまかねと事務打合せを行い本町の実情に合った計画を策定する。

入園人数：（3月31日現在） 定員：1号認定25人、2号認定60人、3号認定40人 計125人

区分/年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	備考
教育利用 1号	-	-	-	3	6	4	13	旧幼稚園児童数
保育利用 2号・3号	短時間	-	1	2	2	2	9	旧保育所8時間保育
	標準時間	12	8	18	21	19	107	旧保育所11時間保育
計	14	8	19	26	37	25	129	内、広域入所3人

※へき地保育所との交流事業・・・就学後の児童たちのスムーズな交流促進を目的とした、年長児の交流事業。
令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、交流保育・お泊り保育・さゆりの会人形劇鑑賞・CAP事業は中止。幼少年芸術劇場合同鑑賞会のみ実施。

認定こども園いまかね運営支援事業


補助金等の有無	有・無
名称	認定こども園いまかね施設給付費外
金額	95,644千円
【事務・事業の写真等】	
 <p>認定こども園・へき地保育所交流集會</p>	

【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		評価の内容及び今後の展望
妥当性	B	・町教育関係機関と位置づけ、教育委員会関連会議等を通し、幼保小中の一貫した環境の充実を図っている。 ・年数回へき地保育所との連携事業を実施し、交流できる遊びを取り入れ就学後を見据えた活動となるよう努めている。
成果	B	・H23年度の運営開始から入園児童数は毎年120名超となっており、高い利用ニーズに応えられる体制が確保されている。 ・保護者の就労等による保育利用児童が多いことから、今金町の子育て支援施設の中核を担っており、幼児教育の充実が図られている。
効率性	A	・保護者の就労形態により認定区分は異なるが、同じ保育を受け、共に育ちあえる環境を整え運営している。 ・保育人材の慢性的な不足に対し、町職員の派遣等で運営支援を実施するなど、運営課題へ連携して対応している。
総合評価	B	・子ども・子育て支援新制度の施行に伴う令和元年10月度からの幼児教育・保育無償化等により、子育て支援の充実が継続的に図られている。 ・令和2年度のコロナ禍においても、感染防止に注力しながら保育開所を継続する等、利用者ニーズに応えた運営を行っている。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価値	B
評価委員意見	新型コロナウイルス感染症対策を図り保育開所を継続することにより保護者のニーズに沿った運営ができたことは評価できる。今後も子育て支援施設の中核として充実を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

グループ名	幼児教育グループ	事業番号
-------	----------	------


令和2年度予算状況			【事務・事業の概要】	幼-②	事業名	へき地保育所の運営事業
款	10	民生費	教育費			
項	1	児童福祉費	教育総務費			
目	2	児童福祉総務費	事務局費			
節		金額（千円）				
1.	報酬		813			
2.	給料		8,599			
3.	職員手当等		1,726			
7.	報償費	25				
8.	旅費	0				
10.	需用費	294				
11.	役務費	237				
12.	委託料	10				
13.	使用料及び賃借料	0				
17.	備品購入費	0				
18.	負担金補助及び交付金	320				
19.	扶助費	0				
計			12,024			
補助金等の有無		有	無			
名称	へき地保育所特例給付費負担金 外					
金額	2,876					
【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善						
【事務・卒業の写真等】		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】		
 <p>ふるさとの思い出をほほえみに 感謝する日</p>		妥当性	B	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園の児童数増に伴い、待機児童解消対策として通年開所してきたが、令和元年度から冬期間所に戻した。 地域行事への参加など、地域との繋がりを大切に協力し合いながら、児童の健やかな成長に資する様、運営を実施。 		
		成果	A	<ul style="list-style-type: none"> 農業を営んでいる保護者が多く、農繁期に併せ開所時間の延長期間を設ける等、利用者ニーズに沿った運営を実施。 運営（草刈り・除雪）に対して保護者・地域からも協力を頂いており、保護者・地域・教育委員会が協働で子ども達の成長を育むことができています。 一人ひとりの良さを生かした異年齢保育によるメリットがある。 		
		効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> 種川小学校校長が保育所長を担うことで、就学前から子ども達とのつながりを持つことが出来ている。 給食提供等に伴う保育士不足等時には子育て応援隊を活用することで、効率的な運営が図られている。 		
		総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との定期的な懇談会の開催、今後の運営方針について保護者や地域自治会代表者を加えた協議・説明の実施等、丁寧な運営により保護者や地域との適切な関係のもとで、安心して子ども達を預けられる保育運営が図られている。 		
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善						
評価欄		B				
保護者との定期的な懇談の開催、今後の運営方針についても保護者や地域自治会と協議を重ね安心して子供たちを預けられる保育運営が図られたことは評価できる。						

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	幼児教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算状況		〔事務・事業の概要〕		幼-③						
款	10 教育費	<p>①事業の目的 地域における乳幼児、児童生徒の健やかな子育てと保育教育環境を充実させることを目的とする。 ※なお、応援隊員は、基本的には町民から募集し登録制とし、今金町教育委員会が開催する子育て応援隊講座を修了した者又は今金町教育委員会がこれに準ずると認めた者の中から今金町教育委員会教育長が委嘱する。職務は教育委員会からの依頼により活動していただく。</p> <p>②事業対象と手段 支援内容：主にへき地保育所保育士のサポート、及び学童保育所常勤支援員との協働による児童支援や運営サポートを行っている。 また、常勤者の休暇や出張時の代替え保育士(指導員)として勤務する場合もある。 ※へき地保育所や学童保育所の施設単位の諸行事に対する支援等も実施。 ※へき地保育所入所説明会時や会議開催時の託児協力</p> <p>いまかね子育て応援隊協力者数： 現在15名の登録者から子育て応援隊としての協力を得ている。</p> <table border="1"> <tr> <td>主に学童保育所での協力</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>主に種川へき地保育所での協力</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>両保育所での協力</td> <td>3名</td> </tr> </table>			主に学童保育所での協力	9名	主に種川へき地保育所での協力	1名	両保育所での協力	3名
主に学童保育所での協力	9名									
主に種川へき地保育所での協力	1名									
両保育所での協力	3名									
項	1 教育総務費									
目	2 事務局費									
節	金額(千円)									
1. 報酬(種へき)	813									
1. 報酬(学童)	5,578									
8. 旅費(種へき)	36									
8. 旅費(学童)	49									
計	6,476									
補助金等の有無	有・ 無									

いまかね子育て応援隊活用事業

名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
<p>〔事務・事業の写真等〕</p>  <p>子育て応援隊活動状況 (学童保育所花いっぱい植栽)</p>	妥当性	A	<ul style="list-style-type: none"> 各保育所において、日々の必要人員確保に不可欠な存在である。 常勤保育士、支援員の休暇取得時や研修・出張時の代替え、各種事業等の託児室開所時の勤務対応も有り。
	成果	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の円滑な運営はもとより、多様な経験と個々の得意分野(物づくりのノウハウ等)を生かし、保育内容の充実にも大きく貢献している。
	効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 時期や事業に連動し、必要に応じたシフト配置が可能となっており、効率性は高い。 令和2年度は質、量共に更なる需要がみられ、特に学童においては特別な支援を要する児童へのマンツーマン対応や、欠員発生時の代替え確保にも効果大であった。
	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 運営全般に欠かせない貴重なメンバーとして高評価に値する。 一方で、常勤職員との立場の違いによる責任感の相違が両者の軋轢を生むことも間々あり、より一層連携の取れた施設運営には、現場の管理職体制の改善及び個々人の職務に対する意識の変革も一定程度必要と思われる。



〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	応援隊は学童保育所、へき地保育所等の運営全般に欠かせないメンバーであり応援隊の制度は高く評価できる。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	子ども発達支援センター	事業番号
-------	-------------	------

令和2年度予算の状況		〔事務・事業の概要〕		
款	3 民生費	【児童発達支援・放課後等デイサービス事業】		
項	1 社会福祉費	0歳～原則18歳まで		
目	7 子ども発達支援センター費	0歳～		
節	金額(千円)	①事業の目的	①事業の目的	①事業の目的
3. 職員手当等	0	・心身に障がいまたは発達に不安のある児童に、個別での教育を行い、日常生活の基本的動作、生活習慣基礎の構築・改善、集団生活への社会性促進等、児童一人一人が、身近な地域で、健全な成長や安心した生活環境の獲得等を目的とした、専門的に発達支援を実施。	・心身に障がいまたは発達に不安のある児童とその家族および地域の子育て世帯への、身近な地域で、発達相談、専門的支援(療育)等、発達への啓発および把握等、地域の発達支援機能の充実を促進し、機関連携における、重層的な支援の中核的整備を図る。	・サービス等利用・児童指導計画を作成し、児童の発達状況や利用者のニーズに沿った、支援内容の検討や生活、家庭環境の向上・改善等、総合的に支援内容の見直しや発育評価を行い、適切な支援環境の維持、提供について整備を行う。
7. 賃金	0	②事業概要	②事業概要	②事業概要
8. 報償費	413	・北海道より「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所」として指定を受けており、今金町・せたな町の檜山北部地域における広域の発達(療育)支援事業として運営実施。	・H31.4月北海道より「市町村中核発達支援センター」の認定を受け、地域における発達相談機関として運営を実施。	・北海道・市町対より「今金町子ども相談事業所」として指定を受け、今金町・せたな町の檜山北部地域における広域支援事業として運営を実施。
9. 旅費	454	・R1.10月報酬改定より3歳～5歳の児童は利用料の無償化。	【対象】	【対象】
11. 需用費	1,920	【対象】	・地域における心身に障がいまたは発達に不安のある児童とその保護者または児童在籍機関(在宅育児世帯、こども園、教育機関、福祉機関)	・心身に障がいまたは発達に不安のある児童とその保護者、福祉サービス受給者証を取得している児童。
12. 役務費	210	【主な内容】	【主な内容】	【主な内容】
13. 委託料	677	・個別療育・小集団活動・体験学習、季節行事	【利用費用】	【利用費用】
14. 使用料及び賃借料	297	・事業報酬単位に対し一割を負担する。 (残りは国保連合給付費として收受)・・・単位/10桁を加算 児童:848単位 放課後デイ:614単位	【利用費用】	【利用費用】
18. 商品購入費	202		・無償	・サービス等利用・児童支援計画の作成 ・モニタリング(6ヵ月毎更新) ・支援調整各種、ケース会議
19. 負担金補助及び交付金	0			【利用費用】
23. 償還金	0			・サービス利用・児童支援計画作成し、事業報酬単位をもとに給付費として国保連合会から收受。 ・利用者負担はなし
計	4,173			


補助金等の有無	(有)・無	利用状況			利用状況			利用状況		
名称	地域づくり総合交付金	今金町	せたな町	合計	今金町	せたな町	合計	今金町	せたな町	合計
金額	1,247	児童発達支援 358回	90回	448回	44名	43名	87名	13名	4名	17名
		放課後等デイ 249回	82回	331回				11名	6名	17名
		合計(区分)	607回	779回				24名	10名	34名

〔事務・事業の写真等〕		※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
	小集団活動の様子	評価項目	評価
	障日交流会の様子	妥当性	A
		成果	B
		効率性	B
		総合評価	B


〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	各関係機関と緊密な連携を図り、相談体制の充実や療育利用等のニーズに対応することが今後の求められるので引き続きセンター機能の拡充を図っていただきたい。

子ども発達支援センター運営事業

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号	社一①
令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】	社一①
款	10 教育費		
項	1 教育総務費	①事業の目的 平成24年度より子ども達の規則正しい生活習慣、創造力、課題と向き合う力の定着を目的に「読書と作文のまち」を学校・家庭・地域・行政の共通フードとして推進してきた。今年度は、改めて目的や概要を全体で共有化を図り、組織運営についても、行政主体の運営だけではなく、学校・家庭・地域・行政の各分野が自主的に活動を行っていただけるよう運営する。	事業名
目	2 事務局費		
節		②事業対象と手段 1.【読書と作文のまちプロジェクトチーム(PT)運営事業】 ■学校・家庭・地域・行政の視点から委員構成 2. 会議・研修会等 ■5月27日第1回会議/7月8日第2回会議/11月4日第3回会議/3月24日第4回会議 3. 事業等(これまで実施してきた事業については継続実施) ■今金小学校PTA連合会「仲間や家族の大切さ」・「読書に親しもう」に関する標語 ■第1回今金エッセイコンテスト 応募作品:323作品 ■今金っ子わくわくフェスティバル2020(今金エッセイコンテスト表彰式) 11月8日(日) 延べ270名参加	家庭・地域教育力向上推進事業
金額(千円)			
学一①「確かな学力の育成充実事業」関連事務局費			
計		0	
補助金等の有無		有・無	
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
【事務・事業の写真等】  令和2年11月8日 今金っ子わくわくフェスティバル2020	妥当性	B	プロジェクトチーム会議の中で目的についてしっかりと共通理解を図る事ができた。委員の委嘱について、今後、目的を達成するために、再検討の必要性がある。
	成果	B	今年度から「エッセイコンテスト」「今金っ子わくわくフェスティバル」の2つの事業を企画し、「読書と作文のまち」としての明確な取組を残すことができた。
	効率性	B	コロナ禍での実施となったが、「学力向上」「人間力向上」を目的に、町民に対して「インプット」「アウトプット」について関心を深める機会の提供ができ、プロジェクトチームとして目指す方向性について理解することができた。
	総合評価	B	「今金町の子どもたちは今金町民の手で育む」ことをキーワードに、インプットとアウトプット(読む・見る・聞く・話す・書く)を手段として、子どもの「学力向上」「人間力向上」に結び付ける活動を学校・家庭・地域・行政が一丸となって今後も継続的に取り組んでいく必要がある。
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
評価欄	評価委員意見		
B	コロナ禍で今年度から「エッセイコンテスト」「今金っ子わくわくフェスティバル」の2つの事業を企画し、「読書と作文のまち」としての明確な取組を残		

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕


令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		グループ名	社会教育グループ	事業番号
款	10 教育費	①事業の目的 野外体験活動等を通じて自ら考え、主体的に行動する児童生徒の育成を図る。また、共同生活や体験学習と異年齢交流を通して、リーダー養成や協調性を培い生きる力を育む。土曜・休日の子どもの有意義な活動につなげることを目的に、「土曜学習」として社会教育が体験プログラムを提供する。 ②事業対象と手段 【土曜日の教育活動推進プランモデル事業「土曜学習」】 文科省補助事業 「今金わくわくカレッジ“イマカレ”」と題して、土曜日を中心に小中学生を対象に年間6本の事業を提供。 「土曜日学習」として既存事業と連携し、参加しやすい事業を提供した。特典達成者計29名 【ドリームバスツアー】8月7日(金)～8月9日(日) 2泊3日 ※コロナウイルス感染症拡大防止の観点で中止 【少年の主張檜山地区大会派遣】 ※コロナウイルス感染症拡大防止の観点で中止 【ジュニアリーダーコース派遣】 ネイバル森 派遣者:なし		グループ名	社会教育グループ	社一②
項	5 保健体育費			事業番号	社一②	
目	1 保健体育総務費			事業名	青少年教育の推進事業	
節	金額(千円)					
9. 旅 費	218					
土曜日の教育活動推進プランモデル事業「土曜学習」 令和2年度学校・家庭・地域連携 協力推進事業費補助金 120千円 予算措置 自己財源88千円 補助金31千円						
計	218					
補助金等の有無	有・無					
名称	学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善				
金額	31千円	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】		
【事務・事業の写真等】		妥当性	A	子どもの「人間力向上」につながるよう、各種体験活動の企画・運営を行っている。		
 <p>令和2年10月11日 イマカレ「オリジナルエコバックづくり」 集合写真</p>		成果	A	コロナで予定していた「土曜学習」の事業内容を変更し、感染症対策を講じて実施し、自分が住む地域の良さに目を向けるきっかけとすることができた。		
		効率性	B	イマカレのように複数の事業をパッケージ化し参加しやすいよう事業の効率化を図っている。参加者の固定化・中学生の事業参加の減少が例年の課題であるが、多少なりとも増加してきている。発達段階に合わせた事業を展開するためニーズ調査を今後実施する。		
		総合評価	A	コロナ禍で感染症対策等を行い、手探りの中での運営となったが、多くの子どもたちの参加を得られた。子どもの「人間力向上」のためにも体験活動はとても重要であり、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、計画したい。		
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		評価欄	評価委員意見			
		A	青少年教育事業として野外体験プログラムを取り入れ3密を避けるコロナ禍でも体験できるメニューを展開したことは評価ができる。今後も感染症対策をとりながら子どもたちの体験活動等を実施していただきたい。			

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		社一③
款	10 教育費	①事業の目的 【大学連携事業】北翔大学との連携により幅広い世代に学習機会の提供を目的とする。 【今金ふるさと塾】成人のための学習支援プログラムとして開設。年間を通じた学習機会を提供する。 【成人祭運営事業】新しく成人となる男・女が自覚と責任をもった社会人となり、各方面で活躍することを全町民こぞって激励祝福する。 【動く公民館事業】『見て学んで体験して』をテーマに町内外の体感学習や芸術鑑賞を鑑賞し町民の学習意欲の向上を図る。 ②事業対象と手段 【北翔大学連携事業】新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業実施無し 【今金ふるさと塾】①林家とんでん平今金寄席(4/4) (中止)②今金オリエンテーション(5/17) (中止)③成人祭記念講演会中止(8/13.1/10) ④ウポポイバスツアー(9/27)20名、⑤4町連携芸術鑑賞バスツアー(中止)⑥ふるさと講演会(中止) 【成人祭運営事業】8月13日延期、1/10延期 【動く公民館事業】①ウポポイバスツアー(9/27)20名 ②4町連携芸術鑑賞バスツアー(中止)		
項	4 社会教育費			
目	1 社会教育総務費			
節	金額(千円)			
8.	報償費 0			
11.	需用費 33			
12.	役務費 21			
計	54			
補助金等の有無	有・㊦			


成人教育の推進事業

名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
【事務・事業の写真等】  9/27ウポポイバスツアー	妥当性	B	今年度も町教委の定例事業や各関係団体との連携により「今金ふるさと塾」としてパッケージ化し、町民に向けに参加機会を提供を予定したが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため8月までの事業自粛となった。
	成果	B	今年度の実施事業はウポポイバスツアーのみとなった。しかし参加者のニーズは多く、定員を超えての参加希望となり、次年度も計画予定。
	効率性	B	計画では各事業、各町との連携事業を計画していたがコロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。
	総合評価	B	今年度は、新型コロナウイルス感染症のため事業中止がほとんどであり、実施できたのがバスツアーのウポポイだけだった。コロナ感染対策の為、バス等の乗車定員も半分となり今後の事業実施について定員や、芸術鑑賞の観劇方法など、感染予防を考慮して開催しなければならない。

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い計画していた事業が中止となったがウポポイバスツアーを感染症対策を講じて実施することができたことは評価できる。今後は事業の内容や定員や観劇方法などを考慮し検討していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		
款	10 教育費	①事業の目的 今金町図書振興計画に基づき「生きている図書室活動」の推進に努め、町民の生涯学習意欲を支えるため「いつでも、どこでも、だれでもが本に親しむ」ことができる機会と環境を整備する。また、「今金町子ども読書活動推進計画」の実践に努める。移動図書館車ブックンは、地域での情報提供(本・資料など)やコミュニティの場面づくりを考慮した活動の展開を図る。		
項	4 社会教育費			
目	1 社会教育総務費			
節		②事業対象と手段 ※()内は昨年度実績 ※新型コロナウイルス感染症対策のため4月20日～5月29日は休室 【図書全体利用】14,490冊(12,653冊)/5,496人(5,527人)[1か月平均1,207冊/458人] ※内ブックン1,918冊(1,928冊)/1,209人(1,054人) ※内夜間開室(7～3月)【週2日水・木曜】453冊(1,001冊)/255人(523人)[1か月平均50冊/28人] ※団体貸出58団体1,948冊 ※学習利用者72人(253人) ※リクエスト貸出サービス(休室期間25日)155冊/49件		
18.	備品図書購入費	1,000	【本のふれあい便】747冊(729冊)/123人(118人)[1か月平均73冊/11人] 【図書室新規登録者】63人(75人) 【図書室イベント】1.図書室おはなし会「おはなしころりん」(9～12月第3土曜日、計4回開催)参加者79人(230人)[1回平均20人] 2.いまかね絵本10周年記念カワグテリオさんワークショップ(10月11日)参加者40名 3.学習室開放事業 夏(8日間)23人 冬(7日間)16人 【ブックン運行】地域巡回(毎月第1水曜日計10回運行) ※12月に廃車。1月より患者バスを活用しコンテナに本を積み貸出。 【学校図書館支援】1.団体貸出(今小249冊、種小337冊、今中232冊) 2.今小図書委員会POP作り(11月) 3.今中図書委員会読書の木作成支援(12月) 4.種小図書館リニューアル支援(12月～継続中)	
	備品DVD購入費	100		
	除菌ボックス	285		
	システム周辺機器	335		
8.	ブックスタート	30		
12.	本のふれあい便	69		
11.	図書室消耗品	283		
	計	2,102		
	補助金等の有無	有・無		
名称	コロナ支援補助金	※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	999	評価項目		評価
【事務・事業の写真等】		評価の内容及び今後の展望(年間評価)		
 <p>令和2年12月13日 クリスマスおはなし会</p>		妥当性	B 4月下旬～5月は新型コロナウイルス感染症対策のため休室となったが図書リクエスト貸出サービスを行った。蔵書管理システムを9月より導入し、既存資料の約19,000冊について登録・整備作業を行った。今後、利用者登録を行い、システムでの貸出や蔵書管理を行う。	
		成果	B ブックスタートや学習室のボランティアは協力依頼ができない状況が続いている。感染対策に留意したうえで、9月よりおはなし会を開催し、12月は町内読み聞かせボランティアの協力でクリスマスおはなし会を行った。また、2月にせたな町でのブックスタートボランティア講習会に参加した。今後も他町とも連携を図れる場作りを行っていく。	
		効率性	C 蔵書登録作業は臨時職員を雇うことで早々に作業を進めることができたが、データとしては分類等が不完全なため、司書など専門知識がある人員で修正していく必要がある。また、町内小中学校支援など図書振興活動を広げていくためには、ボランティアの協力が不可欠と考えられる。	
		総合評価	C 蔵書管理システムの導入により、図書館の蔵書管理が適正にできるようになり、利用者への資料提供もスムーズに行えるようになっていく。また、図書購入予算が増えたこと、図書購入先の追加から、利用者からのリクエスト対応も早くなり、貸出冊数の増加が見られた。今後は蔵書構成の見直しを行い、適正な蔵書管理を目指す。	

社-④

事業名

図書活動の推進事業

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	新型コロナウイルス感染症に伴い図書振興計画に基づく関連事業が思うようにできない中で、自宅で過ごす時間を有意義に過ごす図書振興が図られたことは評価できる。また図書室蔵書管理システムの導入により利用者への図書環境の充実が図られたことは評価できる。


教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート【令和2年度事務・事業分】

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】		グループ名	社会教育グループ	事業番号
款	10	教育費	①事業の目的 【NZバーンサイド高校生受入事業】 平成2年より独自に交流を深めてきた、ニュージーランド・バーンサイド高校より日本語専攻学生を受け入れ、ホームステイを中心とした学校交流や地域交流を通じて、他国の文化習慣に触れ、町民各層の国際理解の向上を目指し、今後一層の国際交流の糧となることを願い実施する。また、今年度においても新たなホストファミリー(受入家庭)の発掘に重点を置き、地域へ新たな国際交流の輪が広がるよう推進する。	社-⑤		
項	5	社会教育費				
目	1	社会教育総務費				
節		金額(千円)	【NZバーンサイド高校生受入事業】 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止	事業名 国際交流の推進事業		
B.負担金補助及び交付金		0				
土曜日の教育活動推進プランモデル事業「土曜学習」 令和2年度学校・家庭・地域連携 協力推進事業費補助金 120千円 予算措置 自己財源89千円 補助金31千円						
計		0				
補助金等の有無		(有)・無				
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善					
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】			
【事務・事業の写真等】	妥当性	-				
	成果	-				
	効率性	-				
	総合評価	-				
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善						
評価欄	評価委員意見 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴いニュージーランドバーンサイド高校生受入事業が実施できなかった。今後感染状況を踏まえ国際交流の推進を図っていただきたい。					

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------


令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】 ①事業の目的 団体運営に関する要望や相談に対し、的確に対応できる支援体制を強化するし、団体間の連携や情報共有を図る。 ②事業対象と手段 【人づくり推進会議運営事業】1件申請（計150千円交付）①絵本普及委員会 【今金町青年会議所運営事業】①今金っ子わくわくフェスティバル出店協力②今金ミーティング事業（中止） 【今金町女性団体連絡協議会運営事業】①5/28オランダ花壇整備②7/22会員交流会③2/3ウインターカレッジ④3/4女性研修会※全道・楡山大会 【今金町子ども会連合会運営事業】※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業中止 【今金町文化協会運営事業】（加盟団体18）10/31～11/2第51回今金町総合文化祭運営指導/10月25日 芸能まつり運営指導 【社会教育団体育成事業】①各地域育成事業説明会6か所（美利河、中里、今金第1老人、八束老人、神丘老人、今金女性会） ②事業支援 中里地区 【いまかねミュージックサマースクール運営事業】新型コロナウイルス感染症の為事業中止 【国際国内交流事業】事業番号⑤	社一⑥
款	10 教育費		事業 名 目
項	4 社会教育費		
目	1 社会教育総務費		
節	金額（千円）		
19. 負担金補助及び交付金	1,066	社会教育団体育成支援事業	
計	1,066		
補助金等の有無			
名称			

名称 金額 【 事務・事業の写真等 】  第51回 今金町総合文化祭展示部門	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
	評価項目	評価
	妥当性	B
	成果	B
	効率性	C
総合評価	C	

【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価値	評価委員意見
C	社会教育団体の育成支援についてはこれまでも大きな課題であり、社会教育の重点事項として取り組むこととしてきたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い思うように各団体も事業典型できなかつた。今後は地域支援や団体支援も含め事業支援体制の方法など継続協議を行い検討していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和3年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕	
款	10 教育費	<p>①事業の目的 幼児から高齢者までの体力向上、維持増進を目的に今金町の体育団体が丸となり推進し、町民皆スポーツの実現を目指す。 【ふれあいスポーツ交流会】冬期間のスポーツ・レクリエーションを通じて地域との情報交換、親睦交流を行うことにより、利雪、克雪の意識高揚と地域の風土に根差したまちづくりを図るとともに、スポーツ・レクリエーションの振興と健康づくりに資する。</p> <p>②事業対象と手段 【スポーツコーディネーター事業】大森健作氏に委嘱し、年間4回来町いただき各種事業の運営支援や町民の研修 ※3回分実施なし ■このころのプロジェクト 1月19日(今金小学校6年生) 内容:「夢を持つことの大切さ」や「仲間と協力し合う大切さ」を実体験を通じて伝える</p> <p>【総合型地域スポーツクラブ運営事業・今金町スポーツ推進委員会運営事業】 ■第65回町民体育祭 7月12日 ※中止 ■第7回ピリカふれあいマラソン大会 7月19日 ※中止 ■すっきりサークル秋の特別編(養護学校) 10月21日(延べ42名) 講師:桃井香苗氏 内容:ホートンテクニックとピラティス風ストレッチ ■第5回町民フロアカーリング大会 12月6日 ※中止 ■トップアスリートチャレンジ2020 1月20日 ※中止</p> <p>【今金町スポーツ少年団本部運営事業】 ■春の体力テスト会スポーツ見学会 5月9日 ※中止 ■秋の体力テスト会・スポーツ研修会 11月15日 講師:小林優太氏 内容:リズムトレーニング ※中止</p> <p>【ふれあいスポーツ交流会】4町連携事業「第5回ピリカふれあい歩くスキー大会」2月16日 ※中止</p>	
項	5 保健体育費		
目	1 保健体育総務費・事務局費		
節	金額(千円)		
1.	委員報酬 224		
8.	報償費 94		
11.	需用費 471		
12.	役務費 167		
19.	負担金補助及び交付金 2,046		
計	3,002		
補助金等の有無	有・無		
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔事務・事業の写真等〕  このころのプロジェクト 1月19日(今金小学校6年生) オンラインによる大森氏による特別授業	妥当性	C	事業の規模が大きく、オンラインやZOOM機能を利用しての実施が困難であった。今後に向けて、各事業の感染症対策や実施方法について検討する必要がある。
	成果	C	新型コロナウイルス感染症の影響により大半の事業が中止となったことから、体力の向上・維持増進という事業目的を十分に達成することができなかった。
	効率性	C	大森健作氏によるオンライン授業を1度実践できたことは、新たな取り組みであり、良い機会となった。しかし、電波状況によって音声や映像に影響が出るといった課題も見えた。
	総合評価	C	オンライン授業のようにコロナ禍でも実施できる方法を各事業ごと検討しながら次年度の事業を展開していく。

社一⑦


専
事
業
務
名
名

ス
ポ
ー
ツ
活
動
の
推
進
事
業

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価額	評価委員意見
C	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴いスポーツ事業がほぼ中止となったがスポーツコーディネーター事業「大森健作氏のこのころのプロジェクト」を感染症対策を講じてオンライン事業で実施することができたことは評価できる。今後は事業内容など工夫をしてスポーツ環境を整え実施していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕


グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和3年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社-⑧
款	10 教育費	〔事業の目的〕		
項	5 保健体育費	スポーツを通じた人間力(礼儀、社会性、協力性等)の形成と自分の未来を切り拓く強い心を育むこと。そして、スポーツ交流により地域の一体感、活力の促進を図るとともに、健康維持と増進、運動習慣の継続化を目指す。総合体育館及び野外体育施設(健民グラウンド・ゲートボール場等)の活用促進・維持管理。		事業名
目	2 体育施設費・体育施設建設費	〔事業対象と手段〕		
節		金額(千円)		スポーツ施設運営事業
10. 需用費	6,652	【総合体育館発信事業】		
11. 役務費	642	①i・フィット:スポーツアドバイザーによる運動教室を開催し、健康づくりと体力づくりの機会を提供		
12. 委託料	35,082	※7月～令和3年3月まで計17回実施(延べ409名)		
13. 使用料及び賃借料	423	②ゆる～くスポーツ体験会:スポーツ推進委員会が主体となり、フローカーリングやボッチャなど幅広い年代が参加できる内容で実施		
14. 工事請負費	76,274	※9月～令和3年2月まで計6回実施(延べ66名)		
15. 原材料費	82	③チャレンジジュニアスポーツクラブ:少年団加入へつなげることを目的に、走る・投げる・蹴るといった基本動作を意識的に取り入れた運動を実施		
17. 備品購入費	1,031	※R2年度はデモンストレーションとして学童の児童を対象に実施(延べ140名)		
計	120,186	【学校開放事業】		
補助金等の有無	有・無	■町立学校体育施設の学校開放(延べ1980名/134日) ■プール開放(高等養護・種川小) ※実施なし		
名称	学校施設環境改善交付金	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	25,933	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	B	継続化・習慣化という点については十分に達成できた。しかし習慣化に伴って参加者の固定化が見られているため、幅広い交流ができていない課題について今後改善していきたい。
 <p>今金町総合体育館“あいきゅーが”</p>		成果	C	i・フィットについてはトレーニング室の利用につながった参加者もいることから十分な成果を感じられるが、ゆる～くスポーツ体験会やチャレンジジュニアスポーツクラブについては事業としての基盤が構築できずにいるため、今後スポーツ推進委員会を含め事業の在り方を検討していきたい。
		効率性	C	学校開放およびプール開放はともに新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、十分な活動時間の提供に至らなかった。また、チャレンジジュニアスポーツクラブについても本来は少年団指導者を主体として計画していたが、指導者の時間を確保することが難しく、今後の課題である。
		総合評価	C	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、新規事業は基盤を構築できなかったことが反省点である。事業計画から改めて見直し、次年度に向けて取り組んでいく必要がある。

〔外部評価委員会の点検・評価〕※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
C	スポーツ施設運営については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、上半期休館等で利用者数が減少したが、総合体育館発信事業等新規事業の展開を行ったことは評価できる。今後も継続性して町民が気軽にスポーツ施設を利用できる環境を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 【幼少年芸術劇場】日頃接することの少ない文化芸術の鑑賞機会を提供し、幼児期・少年期の情緒発達の一助とする。 【IMAKANE Music Summer School】参加生徒の音楽に対する関心を高め、演奏技術の向上を目指すとともに、互いに交流を深め、協力し合う態度を育てる。札幌交響楽団メンバーによる中・高生のためのバンドクリニックを行い、日程の最後に参加者によるコンサートを広く町民に披露する。 ②事業対象と手段 【今金ミュージックサマースクール】※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 【幼少年芸術劇場及び関連事業】 ■「中学生の部」9月3日(木) アンサンブルグループ奏楽(そら) ※アンサンブルグループ奏楽「今金小中学校校歌DVD/CD」412枚寄贈 ■「小学生の部」9月8日(火) 影法師 ■「幼児の部」11月9日(月) ひのき屋 【小・中学生絵画書道展】〈学校教育グループ〉10月31日～11月2日 総合体育館 総合文化祭展示会場で広く町民に作品を披露するとともに優れた作品を顕彰し、文化を通じた子どもたちの健全育成を図る。	
項	4 社会教育費		
目	1 社会教育総務費		
節	金額(千円)		
8. 幼少年芸術劇場	1,200		
19. IMSS	0		
地域づくり総合交付金 125千円×4町 0千円 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
計	1,100		
補助金等の有無	有・無		
名称	いきいきふるさと推進事業助成金	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
金額	600千円	評価項目	評価
【事務・事業の写真等】		評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
 <p>令和2年9月3日 幼少年芸術劇場中学生の部</p>		妥当性	A
		成果	A
		効率性	B
		総合評価	A
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
評価欄	評価委員意見		
A	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴いミュージックサマースクールは中止となったが幼少年芸術劇場については感染症対策を講じすべて実施することができたことは評価できる。今後も事業内容など工夫をして文化芸術鑑賞機会の充実図っていただきたい。		

社一⑨
事業名
文化芸術活動の推進事業

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況	
款	10 教育費
項	4 社会教育費
目	3・4 文化財保護費・文化財保護施設費
節	金額(千円)
2. 給与(受付事務員)	1,425
7. 報償費	10
10. 需用費	1,611
11. 役務費	38
12. 委託料	484
17. 備品購入費	49
18. 負担金補助及び交付金	2
計	3,619
補助金等の有無	有・ 無

〔事務・事業の概要〕

①事業の目的
史跡ピリカ遺跡の保存と保護意識を高めるため、体験学習の場を設け、文化財に対する正しい理解と知識を広めながら、貴重な文化遺産として後世に伝える。館の機能を活用し、学校教育での利用や団体研修を受け入れ、文化財保護意識啓発、郷土史教育へと広げる。

②事業対象と手段
・新型コロナウイルス感染対策のため、4/20～5/31臨時休館
・年間利用者数計1,484名 ※前年度 2,933名(50%減)
※利用者数の約2割に当たる242名が札幌市在住者、1割に当たる129名が道外在住者
※感染拡大地域からの利用が多い特性を考慮した感染対策を講じる必要あり
・ピリカ遺跡まつりは新型コロナウイルス感染症対策のため中止
・クアブラザピリカ1階通路に「ピリカ遺跡ネイチャーギャラリー」を開設
・インターネット、SNSを利用した情報発信 学芸員コラム「何これ?@ピリカ遺跡」の計12記事を掲載、石器づくり動画の配信
フェイスブック<フォロー数269人>、Instagram<フォロワー数319人>、ユーチューブ<動画視聴回数約500回>
・地域に根差した新しい体験メニュー「ジュゴンのガラスドームづくり」11月8日わくわくフェスティバルで開催 28名参加

社一⑩

事業名

ピリカ旧石器文化館運営事業

名称

金額

〔事務・事業の写真等〕




ピリカカイギョウをモチーフにした「ジュゴンのガラスドームづくり」

〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望〔年間評価〕
妥当性	B	文化財や遺跡に興味関心のない人にも入館してもらえるよう、引き続き入りやすい環境整備や情報発信に努める必要がある。地元町民の利用が少ない傾向は慢性的にあるため(利用者全体の12%前後)、町民が身近に接することのできる市街地内での出前講座や定期的な情報発信が課題。
成果	B	新型コロナウイルス感染症の影響で入館利用は大幅に減少した。館の有する二大機能「見学」と「体験」のいずれも、団体利用ができない状況にある。ただし、館がSNSで発信する情報がきっかけで、興味関心をもって来館する人も一定数あった。
効率性	B	入館者名簿から、感染拡大地域からの利用者が多い傾向は明確となっているため、他の施設以上に、感染対策の徹底を図る必要がある。
総合評価	B	文化財や遺跡に興味のある人だけでなく、地元町民に広く親しんでもらえるような取り組みが継続的な課題である。遺跡の意義や価値をわかりやすく伝えるのはもちろん、現在の研究課題を広く共有し、町民も調査に参加できるような体制づくりを今後作ってきたい。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価値	評価委員意見
B	新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた施設発信事業としてスタンプラリー等は評価できる。SNS等の情報発信を継続し運営を行っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和2年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和2年度予算執行状況		【事務・事業の概要】	
款	10 教育費	①事業の目的 貴重な文化財の収集・保存・展示と伝統工芸技術の継承に努める。身近な暮らしや風習を高齢者から聞き取り、記録化を進める。伝統芸能の保存と継承を図る。 ②事業対象と手段 1)資料収集 ・「デジタル版文化財マップ」91件登載済み(4月現在)町内全域にある石碑の網羅的な把握調査 ・「石と化石のお宝鑑定会」(総合文化祭と合同開催予定)…新型コロナウイルスの影響で中止 2)整理保管 ・保管環境改善のため、収蔵資料の整理(廃棄含む)を実施。また、デジタル温湿度計と除湿器を配備し、湿度管理の徹底を図る 3)調査研究 ・マンガン鉱に関する基礎的調査(館のホームページ「何これ?@ピリカ遺跡」に投稿) 4)教育普及 ・古写真デジタルアーカイブ「今金町開拓の祖・今村藤次郎写真展」の開催(総合文化祭に併せて出展) ・「今金町のアイヌ語地名パネル展」の開催(総合文化祭に併せて出展) ・ピリカカイギウ展示コーナーの整備(文化財保管庫内のカイギウ復元骨格模型の周りに解説パネルを整備)	
項	4 社会教育費		
目	3 文化財保護施設費		
節	金額(千円)		
11. 需用費	19		
(保管庫電気料)			
計			
補助金等の有無		有・無	
名称	【自己点検と評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
【事務・事業の写真等】	妥当性	B	進行する高齢化を背景に、空き家が増え、家屋の解体も進められている。そうした中には、町の歴史を知る上で貴重な文化財が残されていた可能性もある。広報誌「広報いまかね」の記事掲載を通じて意識啓発し、一部寄贈につながったケースもあるが、なかなか徹底は難しい。
	成果	B	事業は軒並み中止となったが、逆に学芸員が地域に出向き、基本的な把握調査に取り組めた年でもあった。デジタル文化財マップの登載作業は大きく進捗した。春の臨時休館中、保管資料の清掃や整理を集中して行うことができた。
	効率性	B	今村家から寄贈された大量の写真資料についても、休館期間中に整理に着手することができ、その成果の一部を総合文化祭で紹介することができた。
	総合評価	B	町民から寄贈された文化財は、それらの基本的な調査がなされなければ価値付けできない。町の学芸員では対応できないものも多くあるため、町内外の有識者や大学等と連携を図り対応したい。得られた成果は広く町民に還元し、新たな収集活動につなげていきたい。
【外部評価委員会の点検・評価】 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
評価額	評価委員意見		
B	デジタル版文化財マップを通じた資料収集や把握調査、情報提供は評価できる。 今後は保管資料の整理や活用など有識者にも協力をいただき対応にあたっていただきたい。		

社一⑪
事業名
文化財の保存・活用事業